

次世代交通ビジョンおきなわ（仮称）の策定について

1. ビジョン策定の必要性
2. ビジョンの基本方針
3. ビジョン策定のスケジュール
4. ビジョンで描く将来像について（案）
5. 将来像の実現に向けたポイント
6. 交通×分野別の取組事例
7. 検討体制について

令和8年1月20日
沖縄県 交通政策課

1. 策定の必要性

沖縄県内をめぐる社会課題

本島中南部都市圏の交通渋滞

- 那覇市の平日朝夕旅行速度は全国ワースト（全国30.8km/hに対し、那覇市10.5km/h）
- 交通渋滞による損失が、給与換算で年間約1,455億円（令和5年 沖縄総合事務局）

さまざまな社会課題

- 都市構造上の課題
- 高密度な都市構造、急拡大する都市圏
- 社会構造上の課題
- 少子高齢化・人口減少化社会の到来、貧困問題
- 近年の変化
- 交通・道路環境の改善、観光客数の大幅な増加、大規模開発予定地
 - 社会資本の整備時におけるメンテナンスミマムの概念の導入

公共交通の課題

- 公共交通利用者数の減少
- 割高な交通コスト
- 運転手不足等に起因するサービスレベルの低下
- 公共交通空白地域

環境の保全

- 2050年カーボンニュートラル

戦後100年を目標にした、公共交通の将来像と取り組みの検討

<ビジョン策定に向けた具体的な取組内容>

県民・民間団体等

連携・協働

沖縄県内市町村

- ① 望ましい公共交通の将来像の構築
- ② 望ましい公共交通の将来像と現状イメージの作成
- ③ 望ましい公共交通の将来像を実現するための課題の整理
- ④ 望ましい公共交通の将来像を実現するための取り組みの検討

各種ステークホルダー

（まちづくり、教育、医療、福祉、観光、環境等）

連携・協働

沖縄交通リ・デザインに向けた取り組み
（沖縄総合事務局）

戦後100年を目標にした、沖縄県内の陸上交通に関する『次世代交通ビジョンおきなわ（仮称）』の策定
沖縄21世紀ビジョンに示す「県民が望む将来の姿」の実現、将来像実現のため「克服すべき沖縄の固有課題と対応方向」を踏まえ策定

2. ビジョンの基本方針

沖縄 21世紀ビジョン「沖縄の将来像」

【県民が望む将来の姿】

- ・公共交通機関により、交通渋滞が解消され、事故のない安全な沖縄
- ・南北を縦断する鉄軌道等の公共交通システムを幹線として、路線バスやコミュニティバスが走っている沖縄

【克服すべき沖縄の固有課題】

- ・少子高齢化・人口減少化社会への対応
- ・日常生活において誰もが利便性を確保できる交通環境の整備
- ・社会資本の整備時におけるメンテナンスミニマムの概念の導入

新・沖縄 21世紀ビジョン基本計画

鉄軌道を含む新たな公共交通システムの導入（モレール延伸、LRT、BRTの導入についても並行して検討）

次世代交通ビジョンおきなわ

本島中南部都市圏の交通渋滞の解消

県民視点

（生活の質の向上、子どもたちが安心して暮らせる交通環境の構築）

- ・公共交通の利便性向上・利用促進策
- ・中南部都市圏の交通渋滞を解消する、都市間を有機的に連携する公共交通網
- ・子どもが安全で快適に通学できる交通環境
- ・沖縄交通リ・デザインとの連携
- ・カーボンニュートラルに向けた取組の推進

公共交通空白地域の解消

観光・経済の視点

（世界に選ばれる沖縄、地域経済活性化、日本経済のフロントランナー）

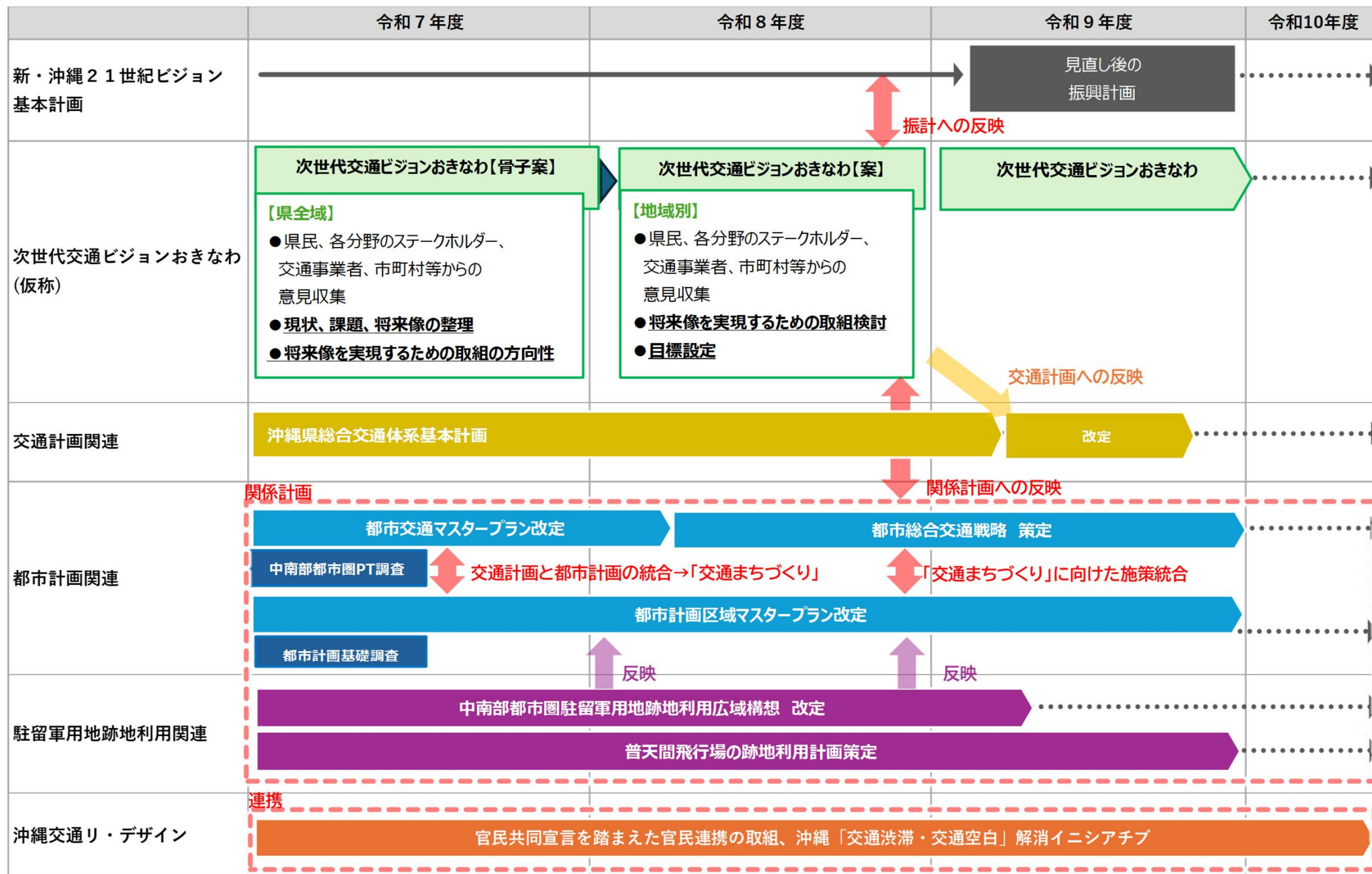
- ・観光満足度の向上（公共交通の利便性向上）
- ・公共交通の利便性向上を図ることにより、経済活動の波及効果を県土全体に拡大
- ・生産性の向上（交通渋滞解消）

公共交通の視点

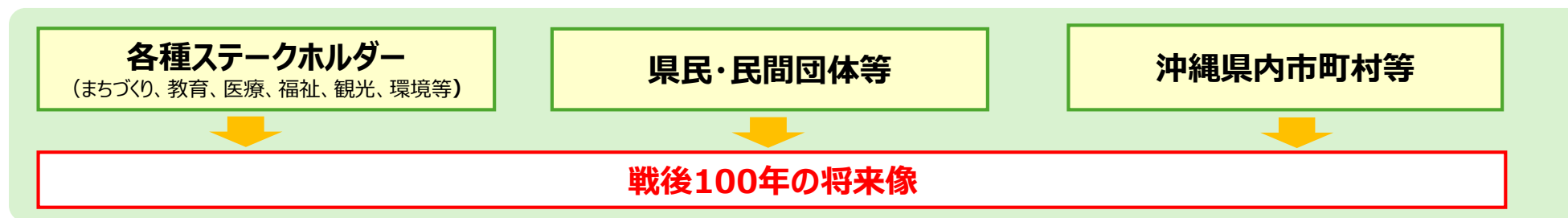
（サービスレベルの高い持続可能な公共交通）

- ・持続可能な公共交通
- ・公共交通空白地域の解消
- ・公共交通の確保
- ・地域公共交通の充実
- ・沖縄交通リ・デザインとの連携（再掲）
- ・市町村交通計画との連携

3. ビジョン策定のスケジュール



4. ビジョンで描く将来像について（案）



※意見集約にあたっては、将来の沖縄県内の望ましい公共交通の姿を議論していただくため、忌憚のない、自由な意見をいただく。

〈将来像の実現に向けた取組（例）〉

※県民が描いた将来像に基づき、将来にわたって持続的に取組を展開するため、時間軸を考慮して重層的に取組を検討。

ビジョンで取組む
2本の柱

短期

長期（2045年～）

公共交通ネットワーク

・都市間を有機的に連携する公共交通網

基幹バスの延伸・強化（BRT導入等）、交通結節点、各種データを活用した公共交通ネットワークの健康診断・アップデート 等

・鉄軌道を含む新たな公共交通システムの導入

枝の交通：圏域軸(拠点間・都市内交通)（幹の交通と効率的に連携する公共交通システム）
幹の交通：南北軸(都市間交通)（那覇～名護間を1時間で結ぶ公共交通システム）

・公共交通空白地域の解消

地域内交通（タクシー、コミュニティバス、デマンド交通、日本版ライドシェア等）、ラストワンマイルの移動確保、地域・交流拠点等 等

・先進技術の活用

自動運転、MaaS、各種データのオープンデータ化、先進技術のテストベッド・アイランド 等

利便性向上・利用促進策

・利便性向上・利用促進策

ソフト対策（料金低減、乗継割引、決済等）、モビリティマネジメント等

・公共交通確保

運転手の確保、赤字補填 等

・他分野×交通

観光二次交通の充実、まちづくり、街路空間（ウォーカブル、景観、緑化等）、道路ネットワーク・渋滞対策等、駐留軍用地跡地利用、環境負荷の小さい公共交通システム、公共交通利用促進策等

中南部都市圏の
交通渋滞の解消

×

公共交通
空白地域の解消

5. 将来像の実現に向けたポイント



- ビジョンの策定にあたっては、『**持続可能な都市モビリティ計画（以下、『SUMP』と称す。： Sustainable Urban Mobility Plan）**』の概念を活用します。
- SUMPとは、2013年に欧州委員会で提示されたコンセプトで、『**生活の質（QoL）を向上させるために、都市とその周辺に住む人々や経済社会活動における移動ニーズを満たすように設計された戦略的な計画**』と定義されています。
- 今回、次世代交通ビジョンおきなわでは、SUMPの特徴である「**人≒県民**」に焦点をあてた、**交通施策に関する構想**となるもので、アクセシビリティ（移動しやすさ）と生活の質（QoL）を重視します。
- また、ビジョンの策定にあたっては、SDGsや21世紀ビジョンと同様の**バックカスティングの手法**を取り入れるとともに、**関連する政策分野との整合性**や、**PI手法を活用し、段階的に論点整理を行いながら、県民や関連するステークホルダーの皆さまと、対話を通じた取組み**を進めてまいります。



※赤枠部分を中心に実施予定

ビジョンには、SUMPサイクルを参考とする

【今回】次世代交通ビジョンおきなわ

ありたい姿（県民の望む将来像）から取組を検討

バックカスティング型



【これまでの交通計画】

需要予測等の根拠（エビデンス）をもとに、取組を検討

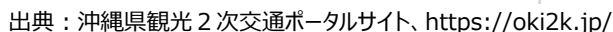
需要予測・対応型



図の出典：交通人材の育成・人的ネットワーク形成のための勉強会
SUMP（持続可能な都市モビリティ計画）とは
2023.1.20 沖縄総合事務局 関西大学 宇都宮 浄人

- ※県民と描く将来像に基づき、将来にわたる持続的な取組について、今後、調整していく内容になります。

【沖縄県】
公共交通と観光情報のオープンデータ化
観光×交通



出典：地域交通共創モデル実証プロジェクト
<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/kyousou/>

7. 検討体制について

